

# 中学生における人間関係と精神的健康の変化 —関係希薄化論と携帯電話利用に注目して—

A98-4421 小林治子 (指導教官 朝倉隆司)

## 1. 目的

本研究の目的は、中学生における人間関係と精神的健康の関係の年代による変化を、92年・97年の同調査の結果と比較・検討し、また携帯電話利用の実態を踏まえながら、関係希薄化論の実態について明らかにすることである。

## 2. 研究方法

- 1) 対象者 東京都内のある一校の公立中学校2年生(92年・97年・今回ともに同じ学校)1992年の調査214名、1997年の調査215名、今回の調査193名：総計622名
- 2) 調査方法 自記式質問紙調査法
- 3) 調査内容 基本的属性、友だち付き合いにおける価値観、友人の数、友だち関係(援助的関係、表面的関係、否定的関係)家族・先生との関係(援助的関係並びに否定的関係)、精神的健康、携帯電話利用
- 4) 分析方法 群間の比較には $\chi^2$  testを用い、有意水準は1%および5%とした。なお、分析にはSPSS10.0 Jを使用した。

## 3. 結果と考察

- 1) 友だち関係のあり方について
  - ①友だち付き合いの価値観—92年・97年・今回の調査において、男女とも有意差は見られず、広く浅い付き合い・友だち志向・社会的である人が6割～8割を占めた。
  - ②友だちの数—親友の数は今回の調査で女子においてやや増加傾向が見られ、表面的な付き合いの友だちはいないと答える者が今回の調査において男女とも増え、人数は減少した。
  - ③友達関係のあり方について—「友達に好かれていないと思うことがよくある」など、主観的項目において、肯定する割合が高かった。
- 2) 家族との関係のあり方について  
援助的関係について、女子において「家族と一緒にいると落ち着き安心できる」などの項目で低下傾向が見られ(P<0.01)、家族との否定的関係が強まっていることが示唆された。
- 3) 先生との関係のあり方について  
男女とも、「自分のためを思って叱ってくれていると感じる先生がいる」など援助的関係の

各2項目において低下傾向が見られた。また、否定的関係においても男子は「先生の発言や態度で嫌な思いをした」など2項目において減少傾向 20%前後の割合の減少が見られ、女子は1項目において減少傾向が、「先生に好かれていないと思うことがよくある」など3項目において増加傾向が見られた。男子は援助的・否定的関係ともに低下傾向で、先生に対する関心が薄れていることが、女子においては否定感情が高まっていることが示唆された。

質問項目	性別	回答	1992	1997	2001	有意差
学校で他の生徒から見下された感じをよくうける	女子	はい	10.5	28.7	29.7	
		いいえ	89.5	71.3	70.3	**
家族と一緒にいると心が落ちつき安心できる	女子	はい	88.5	71.6	55.6	
		いいえ	11.5	28.4	44.4	**
先生の態度や言葉で、傷ついたり、いやな思いをしたことがある	男子	はい	60.7	49.0	34.4	
		いいえ	39.3	51.0	65.6	**

## 4) 精神的健康

自我の混乱・精神的ストレスについては男女とも減少傾向が見られた。また、人間同士の理解・共感の可能性については男子で2項目、女子で1項目において減少し、人間同士は共感できないと考えがちになっていることが示唆された。

## 5) 携帯電話利用と友人関係

たくさんの人と付き合いたいと感じる人ほど携帯電話によって友人関係が広がった・深まったと感じているなど、友だち付き合いの価値観と、携帯電話利用の際の価値観に関連がみられた。

## 4. 結論

本研究では、中学生の人間関係の捉え方が年度ごとに、悲観的傾向を示していることが伺えた。また、希薄化については友人関係ではなく、大人(親・教師)との関係に希薄化傾向が見られることがわかった。携帯電話利用の仕方と友だち付き合いの価値観に関連があることがわかった。主な

## 5. 参考文献

- 松田美佐(2000)「若者の友人関係と携帯電話利用～関係希薄化論から選択的関係論へ～」  
社会情報学研究 4 p111～122